

## 林 角郎 氏追悼

2019年1月27日、千葉県暖地園芸試験場長を務められた林 角郎氏が永眠いたしました。氏は昭和24年、千葉大学園芸学部の前身である千葉農業専門学校をご卒業され、千葉県農林部農業改良課に奉職されました。その2年後の26年に千葉県農業試験場安房分場（その後千葉県暖地園芸試験場）に異動され、途中農林部農業改良課で専門技術員をされた以外、県職員時代のほとんどをここでの研究に費やされました。県を退職後は、テクノ・ホルティ園芸専門学校の教授等を歴任後、地域美化に精力的に活動され、氏が設計施工したJR館山駅東口ロータリーや館山市中央公民館の花壇は、いつも綺麗で訪れる人々の目を楽かせていました。

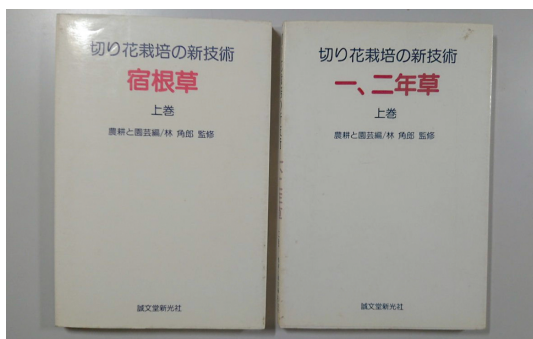
氏はその一生を安房地域の花弁産業の発展の為に尽力され、特に生産が多かった球根アイリスやフリージアの開花調節技術の開発に当たられました。これらの球根は、くん煙処理により冷蔵感度が高まり、球根アイリスではブラインド球、フリージアでは不発芽球の発生を抑制することを究明し、生産の安定と効率化に寄与しました。そのほか、キバナカイウの開花促進など様々な研究を行い、園芸学会等で数多く発表されました。そして、退職後ではありますが、これらの業績をまとめ、1984年2月に「くん煙処理によるダッチアイリス及びフリージアの休眠打破に関する研究」で、東京農業大学より博士号が授与されました。また、球根草花、春まき草花、秋まき草花等の著書も多く、『切り花栽培の新技术』『一、二年草』や『宿根草』等切り花関係の書籍の監修にも当たられていました。

全ての仕事を勇退した後は、ご自宅近くの館山市中央公民館においてガーデニング講座を開催したり、ボランティアを集い、公民館や駅前の花壇作りに汗を流していました。晩年の2年前でしたか、花卉懇談会で取材したおり、林氏は「残念なことにアカデミックな世界では家庭園芸の評価は低いが、家庭に園芸が普及する意味は大きく、花卉園芸の発展に欠かせない」と語っていたことを思い出します。現在花壇作りは暖地園芸試験場の後輩である神田美知枝さんに引き継がれており、林さんの精神と知恵は末永く続いていくものと思います。

林さんが暖地園芸試験場花卉研究室長の時、私は新採で農業試験場に入り、花の仕事をする事になりました。林さんとは年数回の会議や成績検討会でご一緒するにすぎませんでしたが、当時の成績検討会は一泊で行われることが慣例でした。林さんは無類の酒好きで、多めに飲み、気分が良くなると地元の民謡である



2年前の林角郎氏



林氏が監修した切花栽培関係の代表的な本

白浜音頭を歌っていた姿が目に残ります。また、晩年の数年前まで原動機付き自転車を運転されていて、心身共に健康そのものの生活を送っておいりました。

その一生を花関係の仕事に費やされ、すばらしい業績を残された林角郎氏に改めて敬意を表し、氏の志が永遠に継続することを祈念し、まとまりませんが追悼文を閉じさせていただきます。

林さん、長い間お疲れさまでした。安らかに眠りください。

(花卉懇談会会長、  
株常磐植物化学研究所ハーブ園園長 柴田忠裕)